HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	北海道における中小企業家同友会の教育(9)
著者	竹田，正直；TAKEDA，Masanao
引用	開発論集(103)：25-43
発行日	2019-03-15

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

北海道における中小企業家同友会の教育(9)

竹　田　正　直

Education conducted by the Association of Small Business Entrepreneurs in Hokkaido (9)

Masanao TAKEDA

開　発　論　集　第　103　号　別　刷
2019年 3 月　北海学園大学開発研究所

開発論集　第103号　25-43(2019年３月)

北海道における中小企業家同友会の教育(9)

竹　田　正　直*

はじめに

中小企業家同友会全国協議会（略称，中同協）は，1969年11月17日に設立総会をもち，今年，2019年11月17日に創立50周年を迎える。北海道から沖縄まで全国すべての都道府県に基本組織をもち，その協議会である中同協は，2018年4月1日現在，46,363会員が加入している。会員数では，全国第1位の北海道の5,753名から，佐賀県の87名まで様々である。第2位の愛知県4,151名，第3位の広島県2,582名，第4位の大阪府2,357名，第5位の東京都2,224名，第6位の福岡県の2,165名，が2千名を超える会員を擁する。ほかに1千名を超える会員を持つ同友会は，宮城，福島，埼玉，千葉，静岡，京都，兵庫，香川，熊本，沖縄である。(注1)

北海道中小企業家同友会（北海道同友会）は，1969年11月22日，中同協の5日後に結成総会をもったので，やはり，今年11月に50周年を迎える。全国人口比で4.3%の北海道が，中同協の会員数で第1位，12.4%を占めている要因は種々あるが，創立以来，一貫して，共同求人活動と社員共育活動を一体化して重視し，新入社員共育，幹部養成の同友会大学，会員経営者自ら学ぶ経営者大学などの共育活動を重視してきたことが中心的要因の一つであることは疑いない。

中同協は，創立50周年までに5万名会員を目標に活動している。そのうち北海道同友会は6千名を目標（細川修専務理事）として11月の創立記念日までの達成を努力している。

中同協の広浜泰久会長（㈱ヒロハマ会長）は，昨年の宮城での定時総会の第2分科会「中同協設立50周年へ，同友会の歴史と理念」の分科会で，中同協の前史にふれ，1947年に設立された「全日本中小工業協議会」（全中協）が，翌年発表した運動の意義で述べていた「経営の自主性・経営の民主化・中小工業の地位と役割の獲得・民主的統制の確立・超党派の立場」は，今日の同友会理念につながっているという。しかし，全中協が，中小企業団体組織法をめざし運動は上からの幻想を振りまくものとして，全中協をやめて「日本中小企業家同友会」（現，東京中小企業家同友会）を創立し，「中小企業家の，中小企業家による，中小企業家のための」会と主意書に詠い，これが，今日の中同協の「自主・民主・連帯」の理念に引き継がれているという。鋤柄修中同協前会長（2007～16年度）は，近著でも「共に学ぶ」実践を示している。(注2)

国吉昌晴中同協顧問（前副会長）は，定時総会特集号『中同協』，No 101の鼎談「時代を創造

*（たけだ　まさなお）北海学園大学開発研究所特別研究員，（北海道大学名誉教授）

し牽引する同友会運動の歴史と理念」で，1969 年 11 月 17 日の中小企業家同友会全国協議会（中同協）を創立（ 5 同友会 640 会員，北海道と京都は準備会参加）し，1973 年第 5 回（愛知）での，中同協の三つの目的，①よい会社，②よい経営者，③よい経営環境を目指す，を決定したが，その際，②よい経営者は，特になくともいいのではとの意見があったという。しかし，これが入ったことは，その後の自己研鑽と共育へと発展して行く実に重要な目的設定であった。中同協は，1975 年総会で「中小企業における労使関係の見解」，1977 年の総会で「経営指針（理念，方針，計画）」の成文化など，その後の発展の基礎となる重要な決定がなされた。なお，国吉氏が述べている創立時の 5 同友会は，東京，神奈川，名古屋，大阪，福岡である。(注3)

北海道同友会は，2019 年 11 月 22 日㈮に創立 50 周年記念の講演会，記念式典，記念祝賀会を予定しているが，北海道同友会の 2 人の代表理事は，2019 年の年頭にあたって，『北海道同友』，第 67 号で次のように述べている。

守和彦代表理事（㈱ダテハキ取締役会長）は，2018 年 9 月 6 日未明，北海道胆振東部地震の発生による 41 名のご逝去と甚大な被害を見舞い，北海道同友会が直ちに取り組んだお見舞い募金 770 万円をおくりどけたことを，まず，述べている。さらに，50 年前に，北海道同友会は 30 人で結成され，「⑴ここには勿論，同業組合では解決できない悩みを語り合い，激励しあう同友会。⑵会員の一人一人が近代経営に脱皮し，隆盛になる道を探求しあう同友会。⑶金融，税制，労務，法律，貿易などの経営問題や時事問題の講演会，研究会の他，いろいろの懇談や経験交流を行う同友会。⑷政治的には，一党一派にかたよらず，中小企業の当然の要求を声を大にして訴える同友会」を目指し，50 年努力し，いまや会員 6 千名をめざす全国一の規模に発展した。今年は，50 周年事業のスローガン，「つなぐ～原点から未来へ」をもとに，「50 年の蓄積を生かし，経営者相互の学び合いを通して，明日への経営能力を高め，共に力強く歩んでまいりましょう」と結んでいる。(注4)

藤井幸一代表理事（サンマルコ食品㈱代表取締役社長）は，地震やブラックアウトの被害についてふれたあとに，2018 年の同友会活動で一番印象に残ったこととして，「全道経営者〝共育〟研究集会 in とかち」での，オカモトホールディングス岡本謙一社長の記念講演の中でのべた，「成功の陰に失敗あり」のことで，失敗から多くを学び挑戦しているかを自問したという。2019 年は沢山の節目があり，改元の実施，地方選挙と参議院選挙，消費税増税，そして 6 千名会員で同友会創立 50 周年を迎えよう。「経営環境は益々厳しくなることが予想されます。北海道同友会の先輩たちは『激動をよき友としよう』を合言葉に，『共学・共育・共生』の企業づくりに取り組んできました。その結果，地域からあてにされ信頼される企業が着実に増えていきました。北海道は中小企業振興基本条例の制定市町村が 36 を数え，全国の先頭を走っています。その背景には，同友会の地道な学び合いの成果があることを，私は誇りに思うものです。『激動をよき友とする』気概を受け継いだ私たちの新しい挑戦が始まります。」(注5)

二人の代表理事の新春挨拶は，まさに，同友会創立 50 周年の年にふさわしい，原点から未来へ，共に学び合い高め合う共学・共育の年頭の辞と言える。北海道同友会は，社会的経済的に

厳しい地域にあって，とくに，2018 年は，台風や震災の自然災害と人為的災害ともいえる全道完全停電にあいながらも，中同協のなかでいくつかの発展指標で全国一を実現しているのは，経営者も社員も共に学び，共に育ち合う共学・共育の理念と実践が息づいているからにほかならない。北海道同友会の共学・共育の多様な活動のなかで同友会大学はその中軸を担っていると言っても過言ではない。この同友会大学の歴史的な分析とともに，筆者が，同友会創立前から提起している「共育」について，その概念構造を検討したい。

第 1 章　北海道中小企業家同友会第 13 期同友会大学

⑴　第 13 期同友会大学の日程と講義概要

第 13 期同友会大学は，1987 年 1 月 9 日㈮の開校式から，講義の最終が 4 月 20 日㈪で，卒業式が行われた同年 5 月 11 日㈪までであった。(注6)

講義カリキュラム（第 13 期）の単元構成，単元Ⅰ，「経済と中小企業」，Ⅱ，「北海道論」，Ⅲ，「経営と法律」，Ⅳ，「経営分析」，Ⅴ，「科学技術論」，Ⅵ，「人間と教育」，そして，まとめとしての「総括講義」，の構成は第 12 期と同様である。

各単元内の講義構成については，それぞれ若干の変化が見られる。単元Ⅰ，「経済と中小企業」では，第 1 講義が，従来の三好宏一道教育大学教授の「社会発展と経済学」がなくなり，代わって森杲北大経済学部教授の「どうして経済学を学ぶのか～人間の歴史と経済学の発生～」になっている。森教授のサブテーマを見ると，三好教授の経済学の歴史を受け継いでいることが解る。なお，森教授は，第 5 講義で「現代を理解するポイント～グループ研究⑴」は引き続き担当しており，２つの講義を担当している。そのほか北大経済学部眞野脩教授，冨森虔児教授，佐々木隆生助教授の担当は第 12 期と変わらず継続しているが，冨森教授が「戦後日本経済の発展過程と当面の課題」が，「戦後日本経済の特徴と今後の課題」となっている。佐々木助教授は「世界の政治・経済情勢の焦点」を「世界の政治・経済をどうみるか」に変えている。なお，講義順番の変化が若干見られる。

単元Ⅱの「北海道論」は，山田定市北大教授，永井秀夫北大教授，田中了日本民族学会会員，小笠原克藤女子大学教授の 4 人の担当も，夫々の講義テーマも変わらない。

単元Ⅲ，「経営と法律」は，比較的大きな変化がある。まず，継続しているのは，向井清利弁護士の「債権の管理と回収⑴，⑵」で，２つの講義は，テーマも担当者も変わっていない。少し変わったのは，郷路征記弁護士の「日本国憲法の特徴と今日的意義」（第 12 期）が，「日本国憲法の性格と私たちの課題」（第 13 期）となり，単元Ⅲのトップ授業として，積極的な位置づけとなった。大きく変わったのは，中村仁弁護士の「民･商法の基礎知識」（第 12 期）が，「独禁法と中小企業」（第 13 期）に変わったことである。テーマからは，より内容が明確化されたと言える。最大の変化は，第 12 期のトップ講義であった，「労働法の基礎知識」（伊藤誠一弁護士）が削除されたことである。1975 年の中同協総会で，「中小企業における労使関係の見解」が

資料 1　北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 13 期）

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　　師
開　　校　　式		
’87 年 1 月 9 日(金)	◎学長あいさつ，教育委員会の紹介，ガイダンス ◎班編成の発表，性格・職業興味検査	
単元Ⅰ　経　済　と　中　小　企　業		
1 月 12 日(月)	◎どうして経済学を学ぶのか ～人間の歴史と経済学の発生～	北海道大学 教授　森　　杲氏
1 月 16 日(金)	◎経営環境の変化と中小企業経営	北海道大学 教授　眞野　　脩氏
1 月 19 日(月)	◎戦後日本経済の特徴と今後の課題	北海道大学 教授　富森(ママ)　虔児氏
1 月 21 日(水)	◎世界の政治・経済をどうみるか	北海道大学 助教授　佐々木隆生氏
1 月 26 日(月)	◎現代を理解するポイント～グループ研究(1)～	北海道大学 教授　森　　杲氏
単元Ⅱ　北　海　道　論		
1 月 29 日(木)	◎北海道経済の過去・現在・未来	北海道大学 教授　山田　定市氏
2 月 2 日(月)	◎北海道の歴史～近代からの歩みをたどる～	北海道大学 教授　永井　秀夫氏
2 月 6 日(金)	◎もうひとつの北海道史 ～北方少数民族について～	日本民族学会 会員　田中　　了氏
2 月 9 日(月)	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教授　小笠原　克氏
単元Ⅲ　経　営　と　法　律		
2 月 13 日(金)	◎日本国憲法の性格と私たちの課題	弁護士　郷路　征記氏
2 月 16 日(月)	◎独禁法と中小企業	弁護士　中村　　仁氏
2 月 20 日(金)	◎債権の管理と回収(1)	弁護士　向井　清利氏
2 月 23 日(月)	◎債権の管理と回収(2)	弁護士　向井　清利氏
単元Ⅳ　経　営　分　析		
2 月 27 日(金)	◎経営分析の ABC	税理士　上村　昭紀氏

講義時間；18：00〜21：00

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
3月2日(月)	◎経営分析のすすめ方	税理士　池脇　昭二氏
3月6日(金)	◎危ない企業の見分け方	㈱帝国データバンク 札幌支店長　大宮　辰男氏
3月9日(月)	◎経営分析の事例研究〜グループ研究(2)〜	税理士　池脇　昭二氏
単元Ⅴ　科　学　技　術　論		
3月13日(金)	◎科学と人間〜自然科学の発展と人間生活〜	北海道大学 教授　田中　一氏
3月16日(月)	◎技術革新をどう理解するか	北海道大学 助教授　吉田　文和氏
3月20日(金)	◎バイオテクノロジーと北海道 〜現状と可能性を探る〜	北海道大学農学部 助手　西村　弘行氏
3月23日(月)	◎コンピュータを考える 〜情報化時代の対応〜	北海道大学 助教授　山本　強氏
3月27日(金)	◎科学技術の発展と今日的課題 〜グループ研究(3)〜	北海道大学 教授　坂下　志郎氏
単元Ⅵ　人　間　と　教　育		
3月30日(月)	◎幹部に必要な現代のマナー	北海道同友会 事務局長　西谷　博明氏
4月3日(金)	◎人間と話し言葉 〜よりよいコミュニケーションづくり〜	㈳北海道邦楽邦舞協会事務局長 (元HBCアナウンスアカデミー所長) 平沢　秀和氏
4月6日(月)	◎教育とは何か〜社会と教育の歴史〜	北海道大学 教授　竹田　正直氏
4月10日(金)	◎部下をどう教育するか(1) 〜現代人の社会心理と組織の活かし方〜	北海道学園大学 教授　後藤　啓一氏
4月13日(月)	◎部下をどう教育するか(2) 〜目標必達の社風をつくりだ〔ママ〕あげるために〜	㈱共同印刷 社長　木野口　功氏
4月17日(金)	◎〝知恵〟ある人間に育つために	札幌学院大学 教授　方波見雅夫氏
総　括　講　義		
4月20日(月)	◎中小企業の未来と私たちの課題 〜同友会大学で何を学んだか（グループ討論）〜	北海道同友会 専務理事　大久保尚孝氏

※　卒業式　　5月11日(月)　PM 6：00〜9：00

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第13期生記録集，〝働く知恵に〟』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1987年7月，10〜11頁。

決定され，労使関係を大切にし，幹部社員の基礎的教養として労働法の基礎知識が講義されてきたのに，削除されたのは実に残念である。(注7)

単元Ⅳ，「経営分析」は，講義テーマも，３人で４つの講義を担当することも基本的に変わっていない。第１講義「経営分析のABC」は，池端昭二税理士から上村昭紀税理士に変わり，第２講義の池端氏は同じで，テーマが「経営分析のポイント」が「経営分析の進め方」に変わっただけである。第３講義「危ない企業の見分け方」は大宮辰男㈱帝国データーバンク札幌支店長も不変である。第４講義「経営分析の事例研究～グループ研究⑵～」は担当者が上村氏から池端氏にかわり，池端氏の２講義担当は同じである。

単元Ⅴ，「科学技術論」は，大きな変化をしている。第１講義，田中一北大教授の「科学と人間～自然科学の発展と人間生活～」は不変で，第２講義の吉田文和北大助教授も不変だが，テーマが「社会の発展と技術の歴史」から「技術革新をどう理解するか」に変わっている。第５講義「科学技術の発展と今日的課題～グループ研究⑶～」は，担当者が，赤石美紀北大助教授から坂下志郎北大教授に変わっている。第３，第４講義は，テーマも担当者も変化している。第３講義は，第12期の青木由直北大教授「コンピューターの基礎知識～情報化時代への対応～」から，第13期では，西村弘行北大助手「バイオテクノロジーと北海道～現状と可能性を探る～」にかわっており，新しいバイオについての研究を提起している。第４講義は，第12期の，向井隆北海道電気技術サービス㈱社長と井上一郎㈱光合金製作所社長の「中小企業の技術開発～その発想と具体例～」から，第13期では，山本強北大助教授の「コンピューターの基礎知識～情報化時代の対応～」へと変わったがこれは，第12期の青木氏のテーマとほとんど同じである。

単元Ⅵ，「人間と教育」は，第１講義，西谷博明北海道同友会事務局長「幹部に必要な現代のマナー」，第２講義，平沢秀和「人間と話し言葉～よりよいコミュニケーションづくり～」，第３講義，竹田正直北大教授「教育とは何か～社会と教育の歴史～」，第４講義，後藤啓一北海学園大学教授「部下をどう教育するか⑴～現代人の社会心理と組織の活かし方～」，第５講義，木野口功㈱共同印刷社長「部下をどう教育するか⑵～目標必達の社風をつくりあげるために～」，第６講義，方波見雅夫札幌学院大学教授「〝知恵〟ある人間に育つために」である。講義順序が若干変化しているが，これは，講師陣の日程上の都合であろう。

総括講義は，前回と同じ，大久保尚孝北海道同友会専務理事「中小企業の未来と私たちの課題～」である。(注8)

⑵　第13期同友会大学の受講・卒業生の特徴と評価

第13期の受講生は，第３期の58名に次いで多い56名の受講生であった。とくに，企業の幹部の中でも経営者に当たる取締役が10名，部長２名，計12名もの経営者が含まれている。取締役でも，代表取締役１名，専務３名，常務２名が含まれている。(注9)

1987年１月９日㈮の開校式での「決意表明」は，第13期生を代表して，中村重徳㈱ダテハキ課長が行った。まず，国内外の経済状況，北海道の中小企業を取り巻く環境変化にふれて，「円

高，原油安，金利安のもとで新型デフレ経済が進行し，さらに産業構造の転換が加わりまさに北海道の経済状況は混迷のなかにあります。」と述べている。また，国際化，情報化，サービス化，ソフト化がドラスチックに始まると，情勢変化と将来予測もおこなっている。その上で，同友会大学で学ぶ意義を，「この同友会大学で変化の本質をつかみ，新しい時代を予見するための基礎的な力を養うべくここに結集致しました。私たちは，この貴重な機会を与えて下さった経営者や同僚の好意に応えるべく……職種や年齢の垣根をこえ，競争共存の姿勢で学習することを決意」している。実に的確に情勢をとらえ，共に学ぶ意義と決意を表明していた。

さて，4カ月後，西谷博明事務局長が，卒業式で「講評」を述べているが，経営者が多い第13期であるが，開校式まじかになると送り出した経営者から「今度の受講生は心配なんだよね」という電話がいくつもかかってきて，心配して受講を見守っていたが，「日を追うごとに，受講生の皆さんの目の輝きが増し，学ぶことの楽しさや喜びを実感しているようでした」という。

第13期の成績については，まず，卒業率は，56名の受講で49名の卒業なので，87.5%，これまでの13期中第4位の成績で比較的高かった。皆勤率は，49名の卒業生中23名で，46.9%で「やや振るわなかった。」レポートと卒業論文の平均点は，63.2点，12期と全く同じでこれまでの「ほぼ中間」とのことである。努力賞が2名出たことは大きな前進である。西谷事務局長は，通知表をもらって「自信作」のレポートを提出したのにと思うかもしれないが，理由があって，「参考文献をまじめに写している（笑）が，自分の言葉で書かれていなかったようにみうけられ……読む人の心を打つような内容にならず，迫力に欠けるレポート」になっていたと指摘した。

努力賞の一人，本阿弥孝タナカ化学㈱専務取締役が，卒業生を代表して「答辞」を述べた。「同友会大学の厳しさは聞いてはいましたので，やるからには精一杯頑張り，……出張先から直接講義にのぞんだり，単元毎のレポートの作成に徹夜をしたこともあり，正直いって疲れ，辛いこともありました。……現在の北海道は，……厳しい経済情勢の中にありますし，特に中小企業を取り巻く環境も大変厳しいものがあります。このような時代に企業を存続させ，地域経済を発展させていくためには，我々幹部や後継者が本質的，総合的な能率アップを計る必要があるということを痛感いたしました。」と，最後に謝辞を述べて「答辞」を結んでいる。厳しい学びを経て獲得した卒業に甘んずることなく，厳しい北海道の経済情勢へ立ち向かう決意をのべ，さすが企業経営者と言える。(注10)

⑶　第13期同友会大学卒業生への祝辞と励まし

関口功四郎同友会大学学長（北海道同友会社員教育委員長，シオン・樹脂工業㈱社長）は，卒業式で，「同友会大学で学ばれた，身についた良い習慣を継続し，大きな美しい花を咲かせ，素晴らしい実を結ぶようにして頂きたいと思います。……同友会大学は，同友会の〝共育〟の心臓部分です。そのことに責任と誇りをもち，同友会の社員教育活動に協力するなど同友会運動を支えるために，より大きな人として成長されることを望みます。」(注11)

資料 2

答　　辞

充実した 4 ケ〔ママ〕月にわたる講義を終了し，本日ここに同友会大学第 13 期生 49 名は晴れて卒業式を迎えることになりました。

只今は，関口学長をはじめご来賓の方々から心暖まるご祝辞をいただき心よりお礼申し上げます。

かえりみますと 4 カ月前に，期待と不安の複雑な気持で入学致しました。同友会大学の厳しさは聞いてはいましたので，やるからには精一杯頑張り，皆勤しようと心に誓ったわけですが，出張先から直接講義にのぞんだり，単元毎のレポートの作成に徹夜をしたことなどもあり，正直いって疲れ，辛いこともありました。反面苦労してレポートを書き上げた時の充実感や開放感も味わうことができました。

同友会大学で学んだ 4 カ月間は諸先生の熱心な講義に引き寄せられ，毎回大変有意義な時間を過ごすことができ，感謝の気持ちで一杯であります。

講義の内容も世界経済から，日本経済，北海道論，経営と法律，科学技術論，人間と教育と幅広いカリキュラムであり，人間的に一回り大きくなったのではないかなどと自己満足をしております。

現在の北海道は，大変厳しく，戦前・戦後を通じて発展してきた農業，水産業，林業，鉱業は減少の一途をたどっております。石炭もエネルギー革命によって炭鉱が閉山に追いこまれたり，室蘭に見られる鉄鋼の合理化など，厳しい経済情勢の中にありますし，特に中小企業を取りまく環境も大変厳しいものがあります。

この様な時代に企業を存続させ，地域経済を発展させていくためには，我々幹部や後継者が本質的，総合的な能率アップを計る必要があるということを痛感致しました。

本日の卒業を一つの通過点として今後は，同期会や同窓会を中心に共に学び育ちあう同志として交流を深めていきたいと思います。

最後に卒業生一同に代り，諸先生をはじめ経営者の皆様，同友会事務局の皆様，職場の仲間達に感謝するとともに，今後とも一層の御指導，御鞭撻を賜わりますようお願い申し上げまして答辞と致します。

1987 年 5 月 11 日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第 13 期代表
タナカ化学株式会社
本阿弥　　孝

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 13 期生記録集，〝働く知恵に〞』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1987 年 7 月，70 頁。

三浦隆雄北海道同友会代表理事（㈱サンコー社長）は，祝辞として，「同友会は，発足以来，企業に力をつけるためには『人育て』が大切と，社員教育に力を入れ，同友会運動の柱となっております。その社員教育の集大成ともいえる同友会大学で学ばれ，無事卒業されたということは，たとえ，四カ月といえども，人生の中で，ひかり輝く価値ある日々を過ごしたことと思います。私が，小学生の時だったと記憶しておりますが，父から「楽は苦の種，苦は楽の種」と言われたことがあります。私は，今でも調子の良い時ほど，父のこの戒めを自分に言い聞かせております。皆さんは，まさに，「苦は楽の種」ということで……学ぶ習慣，学ぶ姿勢を身に

つけられました。つまり学習の灯火を灯されたのです。その灯火を同期の仲間と学び合いながら大きな炎にして頂きたいと思います。」そしてその火種を全道に「燎原の火」の如く広げて欲しいと，三浦代表は希望した。(注12)

講師の祝辞として方波見雅夫札幌学院大学教授は，好きな作家の一人ロシアのチェホフは，「知恵豊富な人」で，「知恵ある人は学びたがり，知恵なき者は教えたがる」と書き，別の作品で，「愛するものは救われる」と書いている。「いい仕事をしようと思ったら，その仕事を愛し，人に教えようと思ったらその人を愛して頂きたい。つまり，『愛』を覚えて頂きたいのです。」(注13)

もうひとりの講師祝辞を竹田正直北大教授が述べ，当時，三浦隆雄代表らと「ペレストロイカ」のソビエト視察に行き，サービス部門はまだ遅れているが，個人の営業権が認められ，企業の自発性，創意性を尊重し始めたことを述べ，「皆さんが同友会大学で学んだことは，基礎的なことにすぎません。それを皆さんが，どのように発展させて行くかは，皆さんの自発性，創意性にかかっています。これからの奮闘を期待しております。」と激励した。(注14)

岡村敏之同友会大学同窓会長（ダイヤ冷暖工業㈱専務）は，「卒業式は，終わりの日ではなく，スタートの日だとお考え頂きたいのです。……今後とも，同期会，同窓会を通じて学びあってまいりましょう。」と訴え，同窓会の 3 つの申し合わせを紹介している。①年一回同期会をもつ，②年 2 回の同窓会研修会に出席する，③同友会主催の講演会，研修会に積極的に出席し，自らを高め，職場に学ぶ気風を定着させる先頭にたつ，を紹介し，激励した。(注15)

講評を担当した西谷博明事務局長は，その最後に，フランスの詩人，アラゴンの「学ぶとは，誠実さを胸に刻むこと，教えるとは，共に希望を語ること」をあげて，自らをつねに客観的に謙虚に見つめ，共に明日を語り合い，「仲間とともに，すばらしい会社，地域をつくり，歴史の期待に応えてゆく卒業生であって欲しいと思います。」と結んでいる。

第 2 章　北海道中小企業家同友会第 14 期同友会大学

⑴　第 14 期同友会大学の日程と講義概要

同友会大学は，2019 年の今年，1 月 21 日㈪から第 67 期「入学式」が行われ，ほぼ週 1 講義のペースで，卒業式は 9 月 13 日㈮に行われる。しかし，第 13，14 期の当時は，毎週 2 回，月曜と金曜に行われ，毎年，2 つの期が開催された。したがって，1987 年は，5 月 11 日に第 13 期卒業式を終えて，わずか 2 カ月を経て第 14 期が 7 月 13 日㈪から開始され「開校式」が行われた。

第 14 期（1987 年 7 月 13 日～同年 11 月 13 日）の単元構成と単元テーマ，各単元内の講義数は，第 13 期と全く同じで変わっていない。

各単元内の講義担当者とテーマ，開講順序は，大小があるとはいえ変化している。

単元Ⅰ，「経済と中小企業」では，大きな変化は，第 12 期まで「社会発展史と経済学」を担当していて，第 13 期を休んでいた三好宏一道教育大学教授が，戻ってきて，従来，森教授が担

資料 3　北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 14 期）

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
開　校　式		
’87 7 月 13 日(月)	◎学長あいさつ，教育委員会の紹介，ガイダンス ◎班編成の発表，性格・職業興味検査	
単元Ⅰ　経　済　と　中　小　企　業		
7 月 17 日(金)	◎どうして経済学を学ぶのか ～人間と社会をみる確かな目を養おう～	北海道大学 教授　森　　杲氏
7 月 20 日(月)	◎現代の世界経済をどうみるか	北海道大学 助教授　佐々木隆生氏
7 月 24 日(金)	◎戦後日本経済の発展過程と今後の課題	北海道大学 教授　富森（ママ）　虔児氏
7 月 27 日(月)	◎経営環境の変化と中小企業経営	北海道大学 教授　眞野　　脩氏
7 月 31 日(金)	◎現代の情勢をつかむポイント ～グループ研究(1)～	北海道教育大学 教授　三好　宏一氏
単元Ⅱ　北　海　道　論		
8 月 3 日(月)	◎北海道の近代史 ～北海道の歴史をつくった人々～	北海道大学 教授　永井　秀夫氏
8 月 7 日(金)	◎北海道語と話し言葉	㈳北海道邦楽邦舞協会 事務局長　平沢　秀和氏
8 月 10 日(月)	◎北海道経済の歴史と可能性	北海道大学 教授　山田　定市氏
8 月 14 日(金)	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教授　小笠原　克氏
単元Ⅲ　経　営　と　法　律		
8 月 17 日(月)	◎日本国憲法の真髄と私たちの課題	弁護士　郷路　征記氏
8 月 21 日(金)	◎債権の管理と回収(1)	弁護士　向井　清利氏
8 月 24 日(月)	◎独禁法と中小企業関連法	弁護士　中村　　仁氏
8 月 28 日(金)	◎債権の管理と回収(2)	弁護士　向井　清利氏
単元Ⅳ　経　営　分　析		
8 月 31 日(月)	◎経営分析の ABC	税理士　上村　昭紀氏
9 月 4 日(金)	◎経営分析のすすめ方	税理士　池脇　昭二氏

講義時間；18：00〜21：00

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
9月7日(月)	◎危ない企業の見分け方	㈱帝国データバンク 札幌支店長　大宮　辰男氏
9月11日(金)	◎経営分析の事例研究　〜グループ研究(2)〜	税理士　池脇　昭二氏
単元Ⅴ　科　学　技　術　論		
9月14日(月)	◎科学と人間　〜自然科学の発展と人間生活〜	北海道大学 教授　田中　一氏
9月18日(金)	◎コンピュータと情報化時代	北海道大学 教授　青木　由直氏
9月21日(月)	◎科学技術の発展と人類の課題 〜グループ研究(3)〜	北海道大学 助教授　赤石　義紀氏
9月25日(金)	◎技術革新と中小企業	北海道大学 助教授　吉田　文和氏
9月28日(月)	◎バイオテクノロジーと北海道の未来	北海道大学農学部 助手　西村　弘行氏
単元Ⅵ　人　間　と　教　育		
10月2日(金)	◎幹部に求められる現代のマナー	北海道同友会 事務局長　西谷　博明氏
10月5日(月)	◎部下をどう教育するか(1) 〜目標必達の社風をつくりあげるために〜	㈱共同印刷 社長　木野口　功氏
10月9日(金)	◎教育とは何か 〜社会と教育の歴史〜	北海道大学 教授　竹田　正直氏
10月12日(月)	◎部下をどう教育するか(2) 〜現代人の社会心理と組織の活かし方〜	北海学園大学 教授　後藤　啓一氏
10月16日(金)	◎知恵ある人間に育つために	札幌学院大学 教授　方波見雅夫氏
10月20日(火)	◎北方少数民族の生き方で考える 〜北方少数民族ウィルタを中心にして〜	日本民族学会 会員　田中　了氏
総　括　講　義		
10月23日(金)	◎中小企業の未来と私たちの課題 〜同友会大学で何を学んだか（グループ討論）〜	北海道同友会 専務理事　大久保尚孝氏

※　卒業式は　11月13日(金)

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第14期生記録集，〝共に生きる〞』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1988年1月，6〜7頁。

当していた，「現代の情勢をつかむポイント～グループ研究⑴～」を，第5講義で担当していることである。他の森教授，佐々木助教授，冨森教授，真野教授の講義は，講義順序の変化はあるが，テーマはほとんど第13期と同様である。

単元Ⅱ，「北海道論」の担当者とテーマは，比較的大きな変化が見られる。第13期の田中了氏「もうひとつの北海道史～北方少数民族について～」にかわって，平沢秀和㈳北海道邦楽邦舞協会事務局長「北海道語と話し言葉」が，第2講義として入っている。平沢秀和氏の北海道の方言を扱かう講義の単元Ⅱへの移動の理由は不明である。北海道同友会が，新人教育や幹部教育での話し言葉の教育を重視してきていたことは理解できる。

また，第13期の第2講義から第14期では，第1講義となった，永井秀夫北大教授の講義は，「北海道の歴史～近代からの歩みをたどる～」から，「北海道の近代史～北海道の歴史を作った人々～」へ，人物史中心へと若干変化している。山田定市北大教授「北海道経済の過去・現在。未来」から，「北海道経済の歴史と可能性」へと変わった。小笠原克藤女子大学教授の「北海道の風土と文学」は，従来通りである。

単元Ⅲ，「経営と法律」は，第1講義が，郷路征記弁護士「日本国憲法の真髄と私たちの課題」で，第13期で「性格」を「真髄」とかえたものである。第2と第4講義は，向井清利弁護士の「債権の管理と回収⑴，⑵」で，変わっていない。第3講義は，中村仁弁護士の「独禁法と中小企業関連法」で，第13期のテーマに「関連法」を付加して，より法律にかんする内容を重視している。

単元Ⅳ，「経営分析」は，講義担当者および講義テーマ，講義順序とも，全くかわっていない。

単元Ⅴ，「科学技術論」は，第1講義の田中一北大教授のテーマも第13期と同様である。第2講義が，第12期で担当していた青木由直北大教授が「コンピューターと情報化時代」のテーマで復活している。第3講義の赤石美紀北大助教授も「科学技術の発展と人類の課題～グループ研究⑶～」で第12期から復活してきている。第4講義は，吉田文和北大助教授が「技術革新と中小企業」のテーマで継続担当しているが，第13期は「技術革新をどう理解するか」であり，より中小企業に焦点化したと言える。第5講義，西村弘行北大助手（農学部）の「バイオテクノロジーと北海道の未来」で，第13期から若干のテーマ変更はあるが継続担当している。温暖化に伴う地球環境の変化や再生エネルギーへの関心のたかまりとともに，北海道同友会が，北海道の重要産業である，農林漁業と加盟企業との相互理解や生産協力，さらには，加盟企業を農林漁業の個別経営者へとひろげてゆくこととも関連している。

単元Ⅵ，「人間と教育」の第1講義，西谷博明北海道同友会事務局長，第2講義，木野口功㈱共同印刷社長，第3講義，竹田正直北大教授，第4講義，後藤啓一北海学園大学教授，第5講義，方波見雅夫札幌学院大学教授までは，若干の順序変更や西谷氏のテーマの一部変更があるもののほとんどが第13期の継続である。第6講義の田中了日本民族学会会員の「北方少数民族の生き方で考える～北方少数民族ウイルタを中心にして～」は，単元Ⅵとしては全く新しい。田中氏の講義は，かっての日本領土「樺太」に住んでいた先住民族のウイルタが軍隊に徴兵さ

れ，敗戦後，網走で苦難の歴史をたどり，田中氏らの支援の過程で民族の誇りを取り戻したことを内容とする。田中氏が教員であったこともあり，民族教育と本質的な人間教育の内容を含んでいる。

総括講義の大久保尚孝北海道同友会専務理事の講義テーマは変わっていない。(注16)

⑵　第 14 期同友会大学の受講・卒業生の特徴と評価

第 14 期の受講生は，38 名である。これは，第 13 期の受講生 56 名よりかなり少なく，第 13 期生の 67.9％である。これは，北海道の企業にとって相対的に活動が閑散な冬季をふくむ時期には社員を研修に出しやすいが，夏季は出しずらいことが影響していると思われる。少ない受講生のなかでも，企業経営者が多く受講しており，卒業生のなかでも，社長 1 名を含む取締役 5 名，部長職が 4 名おり，さらに，社内事情で継続できなかった女性経営者が 1 名いたので 10 名の経営者（受講生中 26.3％）が受講している。女性の受講者は，この女性経営者をふくめ 2 名で，まだまだ，低い受講数である。第 14 期の受講生の平均年齢は，36.6 歳で，第 1 ～14 期の平均 34.4～37.4 歳なので，高い方から第 2 位である。(注17)

開校式では，岡村敏之同友会大学同窓会長（ダイヤ冷暖工業㈱社長）は，「入学おめでとうございます。入学にあたって，私よりみなさんへ二つ申し上げたいことがあります。ひとつは，いま，なぜ，ここにいるかということを問い直していただきたい。……もう一点は，講義だけにとどまらず，もっと多くの角度から学んでいただきたい。」つまり，第 1 については，経営者，会社や世の中が受講生に何を期待しているか，我々は何を為すべきかを，第 2 は，多くの仲間を作り，同友会を知り，勉強の必要性と学び方を学んで欲しいという。岡村氏自身，同友会卒業後 6 年で，専務取締役に昇任しさらに，社長に就任したのは，この二つの自覚があったからであろう。

祝辞を受けての，開校式での「決意表明」は，西村公平㈱ニシムラ製造部主任が行った。

西村氏は，「情報化時代」の到来の中で，情報化に翻弄されるのか，人間の豊かな暮らしと中小企業の発展のために「情報を主体的に活用」するかが問われており，「人間としての確かなものの見方，考え方を私たちは確立しなくてはなりません。同友会大学は，そのための絶好の機会だと思います。」と情勢，ならびに，いま同友会大学で学ぶことの意義をしっかりと認識している。さらに，「私たちは，同友会大学で学んだことを活かし，北海道の歴史と風土に根ざした中小企業の若々しい息吹が，あちこちからきこえて，人間が人間らしく育ち，暮らしているすばらしい大地，北海道をつくりあげてまいりたいと決意しております。」と，卒業後の未来を見つめた決意表明を行った。(注18)

受講生 38 名のうち卒業生は，35 名で 92.1％，14 期までの第 2 位という高い卒業率である。皆勤も 35 名の卒業生中 23 名で，65.7％，14 期までの第 2 位である。この皆勤率第 2 位は，実は，最近の 65 期までみても第 2 位で特筆に値する。ただし，レポートと卒業論文の平均点，62.2 点は，14 期までの第 12 位で振るわないが，今日までの 65 期まででは，27 位と半分より少し上

位にある。努力賞は，寺崎清一㈱サンコー月寒営業所主任である。特別賞は，寺崎氏のみという貴重な受賞であった。

卒業式で，講評を担当した大久保尚孝専務理事は，「14 期生の卒業率は大変高いものであり，受講姿勢はこれまでの範となるものと言えるでしょう。」と称賛している。さらにつづけて，「レポートを書き上げるために読まれた参考文献は，他の期と比べると群を抜いていました。」真理に近づこうとする積極性，学問にたいする誠実さ，学ぶことへの情熱はすばらしいものでした。」(注19)

その上で，平均点が低かったのは，ひとつは，レポートのテーマが何を要求しているかを正確に把握しきれず「的はずれのレポートが多かった」ことである。2 つには，「講師が，どんな視点で何を主張しようとしているのか，正確に聞き分ける力をつけたい。」3 つには，「文章力にやや難点がある」ということをあげている。

受講生自身が，同友会大学での学びをどう感じたかを見ておこう。

㈱サンコーの日景敬次氏は，同友会大学との出会いは，私の生活のリズムを根本から変えてしまった，という。レポート提出の直前は，深夜となるが，翌日の仕事は何時も通りで，限られた時間の使い方を工夫するようになったという。「人間は，毎日が勉強の積み重ねなんだと，改めて教えてくれた同友会大学に感謝するとともに，これからも自分をみがいていく努力を怠らないようにします。」㈱丸富ライスパーラーの上野智央氏は，以前大企業に勤めていたが，同友会大学の 4 ヵ月ほど充実した毎日を過ごしたことはないという。「同友会大学は楽しく，大企業でなんとなく過ごした 20 年間をとり返そうという思いで勉強しました。人間とは何か，働くということはどういうことなのか，考え学ぶきっかけとなりました。」(注20)

第 14 期卒業生記録集には，第Ⅰ～Ⅴ単元までの単元毎の優秀レポート各 5 ～ 6 編が掲載され，第Ⅵ単元はレポートはなく，この期間に卒業論文の執筆・提出が，全員に義務付けられている。その中から，優秀な 6 編が掲載されている。そのうちの 1 篇である奥山敏康（㈱共同印刷営業本部部長）は，「中小企業と私たちの任務」のテーマで，中小企業の高度化と多様化をふまえて 3 つの論点を提起している。第 1 は，「中小企業を取り巻く今日的状況」である。円高不況により内需が減少し，失業者が 167 万人と言われ，中小企業のより厳しい状況を指摘している。第 2 に，「中小企業みずからが経済環境を変える時」として，地域密着型の中小企業こそが内需拡大すべきとしている。第 3 として，「真の企業づくりと同友会運動」を提起し，中小企業の生き残りと発展のために，①会員同士の交流と自主的近代化と強靱化，②経営者の能力向上，③経営環境の改善，についての具体的提案をおこなっている。「企業としての社会的役割を誠心誠意貫き，お客様から委託された仕事をやりあげる中で，全人格的な成長をかちとってゆくという企業の考え方，理念を明確にしていくこと」を説得力をもって提起している。(注21)

⑶　第 14 期同友会大学の卒業生への祝辞と励まし

第 14 期卒業式（1987 年 11 月 13 日，金曜，札幌市中央区，第一ビル）で，関口功四郎同友会

大学学長（社員教育委員長，シオン・樹脂工業㈱社長）は，まずは祝意を述べ，とくに，第14期に60歳近い方が学ばれたことに敬意を表した。さらに，竹田正直北大教授が講義で話した，ロシア語で人間はチェラヴェークというが，これは，チェラが，額，頭を意味し，ヴェークは，世紀を意味するので，何世紀にもわたる頭脳や知識を身に付けてはじめて人間となるという講義が，印象的だったとして，「卒業は終わりではなく，新しい出発です。四カ月積み上げた成果（信頼，習慣，知識，etc）を失わないで，さらに何かをプラスしてほしいのです。そして，チェーラを豊かにし，次代を担うチェラ・ヴェークを持つ人間になって下さい。」(注22)

講師の祝辞では，方波見雅夫札幌学院大学教授が，当時の「個食」ばやりと一人前食品がよく売れていることにふれ，「対話の精神」を近代精神の中核とし，「個食化ではなく，大いに共食しようじゃありませんか！〝とも食い〟じゃありませんよ（笑い）。共に語らい，共に学び，共に育つ場を持つことです。……同友会大学同窓会の全部と，共食しつつ共に育つことの歓びを末永く持ち続けたいものであります。」(注23)

卒業式に出席したもうひとりの講師，森杲北大教授は，第14期同友会大学の開催期間に，株とドルの暴落があり，世界経済の危機が語られ，中小企業にとっていっそう厳しい状況となっていると述べた。「しかし，例えば近代日本経済が世界で相対的に優位に立った理由の一つが，いろんな意味で日本の中小企業の存在にあることが注目されている。」とし，アメリカの中小企業庁を訪れ，ハウツーものの教育のアメリカの中小企業教育に対し，北海道における同友会大学のカリキュラムの英訳をわたしてきた。また，近く，イギリスの中小企業研究者も来道するので交流して欲しいと提起した。(注24)

受講生をおくり出した経営者の思いの一端を一関脩㈱北海道フキ社長が，卒業式後の祝賀会で述べている。「私が同友会大学に期待していることはただひとつ，『人間学』を学んでほしいということです。ともすれば，我社の場合も，仕事しごとでまわりがみえなくなる。人の間で生かしてもらっていることがみえなくなる。これは大変おそろしいことなんです。受講生として出した社員をみてますと，楽しそうにしている。明るい表情をしている。私は，これで充分だとおもいます。」(注25)

同友会大学での受講は，定時退社が困難な中小企業においては，受講自体が厳しいものであるが，その上に，５本のレポートと卒業論文で慣れない高度な論文執筆の厳しさもある。その中での「楽しさ」は，確かな学びの自覚化が受講生の側の条件であり，もう一方に講師の側の内容の良さと質と熱意が必要である。努力賞の寺崎清一㈱サンコー主任は，「はじめは少しおっくうだったのが，いつの間にか，週二回の講義が楽しみでしかたがなく感じる自分へ，大きく変わっていました。これからの人生，社会や職場，そして家族とどう歩むのか，少しですが確信をもてました。」(注26)

この寺崎清一氏が，卒業生代表の「答辞」を読んでいる。講義や指導への感謝につづき，「単元ごとのレポートの作成はほとんど徹夜で正直いって疲れましたが，本当に人間の暮らしを豊かにするための経済を考え，そして生きる知恵を身につけていくことの大切さを学びました。

資料 4

答　　辞

7 月 13 日の入校以来，4 カ月間にわたる講義も終り，初冬の季節を迎える時期になり，同友会大学第 14 期生は晴れて卒業式を迎えることになりました。

只今は，学長はじめご来賓の方々から心暖まるご祝辞をいただき心よりお礼申し上げます。

同友会大学で学んだ講義の内容は，幅広く，諸先生方は熱心にそして真剣に私達を指導して下さいました。又，経営者の皆様，同友会事務局の皆様，職場の仲間たちの協力と励ましに支えられ，毎回大変有意義な時間を過ごすことができ感謝の気持ちで一杯です。

単元ごとのレポートの作成はほとんど徹夜で正直いって疲れましたが，本当に人間の暮らしを豊かにするための経済を考え，そして生きる知恵を身につけていくことの大切さを学びました。また人間の幸福や経済の発展と軍備の増強とは相容れないこともわかりました。科学技術の成果が人間の未来のために正しく生かされるよう，しっかり監視する目を養っていく必要があります。

中小企業をとりまく政治経済環境は，大変厳しいものです。私達の生活を支える中小企業を守り発展させるためには，私達が同友会大学で学んだことを生かし，豊かにしていくことが求められています。

今後とも，学べ，学べの精神で学び続けたいと決意しております。

最後に卒業生一同に代り，諸先生をはじめ，経営者の皆様，同友会事務局の皆様に改めて感謝いたしますとともに，今後とも一層の御指導，御鞭撻を賜わりますようお願い申し上げまして答辞とさせていただきます。

1987 年 11 月 13 日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第 14 期生代表
株式会社サンコー
寺﨑（ママ）　清一

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 14 期生記録集，〝共に生きる〟』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1988 年 1 月，56 頁。

また人間の幸福や経済の発展と軍備の増強とは相容れないこともわかりました。科学技術の成果が人間の未来のために正しく生かされるよう，しっかり監視する目を養っていく必要があります。……今後とも，学べ，学べの精神で学び続けたい」と決意している。(注27)

おわりに

筆者は，同友会大学の歴史的分析と関連付けて，本誌の第 101 号で，「共育活動」の構造化を以下のように試みた。

１つには，「直接的共育活動」と名付ける同友会大学内部での共育活動である。これには，第１に，講師と受講生との間の共育活動で，圧倒的には講師が教える活動であるが，受講生から講師が学ぶ活動もある。第 2 は，受講生同士の相互共育活動であり，授業中のみならず授業外

での相互活動もある。第3は，学長，社員教育委員会，代表理事，事務局と，受講生たちとの間での相互の共育活動である。同友会大学担当事務局員と受講生の共育は多大である。

2つには，「間接的共育活動」と名付ける同友会大学の外部での共育活動である。これには，第1に，受講生を送り出した企業での共育活動があり，第2は，受講生の家庭での共育活動であり，第3に，卒業後，全員が参加する同窓会での共育活動である。(注28)

第13期では，講評を行った西谷事務局長が，「間接的共育活動」の第2，家庭での共育活動の感動的事例として次のように述べている。ある受講生は，「ここ40年来会社から帰って，自宅で勉強したことがなかったそうです。ところが同友会大学に入学して好きな酒もやめて必死に勉強した。そのうちに，小学生のお子さんもテレビを消して，勉強するようになった。そして，『うちのお父さんの勉強』という作文を書いて，花丸をもらってきたそうです。また，奥さんも本を読んで勉強するようになったと言います。」と紹介し，同友会大学受講生の真剣な学習が，自らのみならず家族，職場，地域を変え，共育する力を持っていると評価している。また，前記の小学生とは別の小学生と思われるが，㈱ダテハキ松本隆則課長の小学生の息子さんが，作文「お父さんへ」を書き，「お父さんがレポートを書いていた時に，やっぱりぼくも勉強しなきゃならないのかなあーと思った。それに前より成績も上がったのでこれからはもっとがんばろうと思う。」(注29)

第14期受講生，皆勤賞の小浜彰造氏（北海道林友観光㈱索道技術管理者）も，家族への共育の実例を，「私が，家でレポートを書いていると，子供達も自分から教科書を開くようになり，私が変わり，家族が変わりました。」(注30) と，述べている。

同じく皆勤賞の酒井敏一㈱酒井組社長は，「はじめは，30講を全部出席しようとは考えていませんでした。ところが，他の受講生の熱心さに感化されてついに卒業式まできてしまいました。私の場合，他の受講生，他社の幹部の皆さんとの交流が大変有意義でした。我が社の人育て，幹部養成の数多くのヒントをいただきました。」と，述べているが，これは，直接的共育活動の第2の具体的事例である。(注31)

直接的共育活動の講師からの共育は，レポートや卒業論へ反映されているし，答辞その他，受講生が多く語っているが，その逆について語っているのは今回は見当たらない。

なお，第Ⅵ単元は，最終単元でもあり，この期間は卒業論文執筆期間であるため，第Ⅵ単元のレポートは課題となっていない。従って，筆者が担当している第Ⅵ単元の講義については，記録集にはほとんど反映されない。第14期卒業式で，竹田の講義内容を引用しながら関口学長が祝辞を述べたことは，実に，珍しいことである。関口学長が自主的に聴講していたのか，卒業生などから聞いたのかは不明である。また，第13期については，今回，珍しく，受講生の感想や発言が掲載されず，それらも含め，共育構造の検証事例は少なかったと反省している。

注

（注1）中小企業家同友会全国協議会編集『中同協』，No 101，2018年10月25日発行，127頁。第50

回中小企業家同友会全国協議会定時総会 in 宮城，2018 年 7 月 5 日～ 6 日，仙台市，江陽グランドホテルにて。総会スローガンは，「同友会らしい企業づくりの輪を広げ日本と地域の未来を拓こう」。出席会員等 1,312 名。

（注 2 ）同上，13 頁。鋤柄修著『経営者を叱る―学んで実践し続けてこそ』，三恵社，2018 年。

（注 3 ）同上，110 頁。国吉昌晴は，北海道大学教育学部を卒業後，北海道の地域経済研究の機関，北海道同友会事務局長，中同協事務局長，専務幹事，副会長を歴任し，現在は中同協顧問として中同協の歴史分析や執筆にあたっている。

（注 4 ）守和彦「創立 50 周年，つなぐ～原点から未来へ」，佐藤紀雄責任編集『北海道同友』，第 67 号，北海道同友会発行，2019 年 1 月 1 日， 2 頁。

（注 5 ）藤井幸一「新しい半世紀に向かって」，同上， 3 頁。

（注 6 ）西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 13 期生記録集，〝働く知恵に〞』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1987 年 7 月，10～11 頁。

（注 7 ）同上，11 頁。「労働法の基礎知識」（伊藤誠一弁護士）は，次の第 14 期でも削除されている。その後，第 15 期同友会大学（1988 年 1 月 11 日～ 5 月 10 日）には，同じ伊藤弁護士の講義として，若干テーマが変わり，「労働基準法の改正と中小企業」として講義している。第 16 期は「『改正労働基準法』と中小企業」と変化してゆく。第 13 期での削除の理由は不明であるが，伊藤弁護士の個人的都合か，労働基準法の改正が進んでいるので，その推移を見た上でとのことであったかもしれない。ただ，労働基準法への特化は，視野がせまくなり残念である。

（注 8 ）同上，10 頁。なお，第 5 講義は，木野口功㈱共同印刷社長「部下をどう教育するか⑵～目標必達の社風をつくりだ〔ママ〕あげるために～」が原文である。

（注 9 ）同上， 2 ，71，72 頁。なお，受講生数は，西谷事務局長の講評で 56 名となっており，卒業や皆勤の比率はこれに基づいて算出しているが，近年の基礎データには，「57 名」となっており，どちらかに確定する資料はない。

（注 10）同上，西谷事務局長の講評は， 2 頁，本阿弥孝氏の答辞は，70 頁参照。

（注 11）関口功四郎「北海道を担うスクラムを」，同上， 1 頁。

（注 12）三浦隆雄「灯した火種を大きな炎に」，同上， 8 頁。

（注 13）方波見雅夫「〝愛〞を感じられ人間として」，同上。

（注 14）竹田正直「自発性と創意性に満ちた共育を」，同上， 9 頁。

（注 15）岡村敏之「同窓会は，〝共育〞の集大成の場」，同上。

（注 16）同上， 6 ～ 7 頁。

（注 17）西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 14 期生記録集，〝共に生きる〞』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1988 年 1 月， 4 ，58～59 頁。

「卒業できなかった三名の中には，学びを続けたいという強い願いにもかかわらず，やむを得ない社内の事情によって継続が不可能になった婦人〔ママ〕経営者がふくまれています。」（ 4 頁）

（注 18）同上， 8 ～ 9 頁。なお，開校式では，通常，学長の式辞や出席した講師の祝辞があるが，今回は資料として残されていない。

（注 19）同上， 4 頁。

（注 20）日景敬次「毎日が勉強」，同上，40 頁。ここでのポストは「課長」となっているが，59 頁の卒業生名簿では，「次長」となっている。同友会大学の初期の卒業祝賀会で，保護者として出席していた社長が，立派に卒業したので，明日から昇任と発表したことがあり，どちらも正しいかもしれない。上野智央「人間とは何かを考える」，同上，48 頁。ポストは総務部長。

（注 21）奥山敏康「中小企業と私たちの任務」，同上，53～54 頁。なお，奥山敏康氏は北海学園大学卒で現在は㈱アイワード社長。

（注 22）関口功四郎「地殻変動時代の頼れる人間集団として」，同上。2 頁。関口学長がどのようにして，筆者の講義内容を知ったかは不明であるが，若干のミスがあったので，引用文以外の筆者の地の文で訂正している。

（注 23）方波見雅夫「〝対話の精神〞を育てよ」，同上， 5 頁。

（注 24）森杲「世界が注目する同友会大学！！」，同上， 5 頁。

（注 25）一関脩「『人間学』を学んでほしい」，同上，25 頁。

（注 26）寺崎清一「学ぶ楽しさを実感」，同上，55 頁。

（注 27）寺崎清一「答辞」，同上，56 頁。

（注 28）本号での第 13 期，第 14 期の同友会大学の共育活動を分析する際に，この構造の精緻化をさらに試みる。竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育(7)」，北海学園大学開発研究所『開発論集』，第 101 号，2018 年 3 月刊，49～50 頁。竹田正直が，「共育」概念を提起したのは，1964 年 12 月 25 日公刊の論文である。同前『開発論集』第 102 号，2018 年 9 月，77 頁参照。

（注 29）西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 13 期生記録集，〝働く知恵に〞』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1987 年 7 月，初めの引用は 2 頁，あとの子どもの作文は 57 頁。

（注 30）小浜彰造「家族も変わった」，西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 14 期生記録集，〝共に生きる〞』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1988 年 1 月，28 頁。

（注 31）酒井敏一「数多くのヒント」，同上，20 頁。